

「この日の宿は黒島天主堂近くの「民宿つるさき」。玄関を入ると、「いらっしゃいませ！」と元気な子どもたちの声を迎えてくれた。

宿は四年前にオープンした。高校卒業後、大阪の飲食店と佐世保のホテルで和食を修行した鶴崎浩司さんが黒島に戻ってきたのは十二年前。父の時雄さんと母の美智子さんが営んでいた雑貨店の横に食事処をオープンしたところ、島を訪れるビジネスマンや観光客に「宿泊所もほしい」と請われ、宿を始めた。

「民宿つるさき」はとにかく忙しい。泊まり客の他に、お食事処には昼は観光客が食事を、夜は地元客がお酒を楽しみに足を運ぶ。弁当や鉢盛りの注文が入るかと思えば、雑貨店に客が来る。

この忙しさを乗り越えることができるのはやはり家族の力があるから。メニュー作成や料理は浩司さん、接客は奥様の直美さん、料理に使う野菜畑の手入れや観光客のガイドは時雄さん、雑貨店の店番や料理の手伝いは美智子さん、そして小学生の大鳳くんや華ちゃんはお風呂掃除やタオルの準備などなど。とにかく家族全員で働く。

夕食の時間。「島でとれた野菜や魚を食べて元気になってほしい」という浩司さんの言葉通りのメニューが並んだ。昼間、行く先々で宿泊先を聞かれ、答える「あそこの「たまねぎのあんかけ」は最高ばい」と皆が口を揃えていた。テ

我が家のようなくつろぎと

名物料理を楽しむ夜



つるさき名物の「たまねぎのあんかけ」。

ブルに運ばれたそれは、新たまねぎ独特の甘味と、隠し味に味噌を入れたあんがたまらない、思わず唸ってしまう美味しさだ。

舌鼓を打っているところへ華ちゃんが登場した。「手品を始めます」の一言で始まったショータイムは、ハンカチを使った可愛いマジック。成功するたびに拍手が湧く。華ちゃんの後に待っていたのは、大鳳くんの歌の披露。マイク代わりに辛子のチューブを握りしめ、元気いっぱい最近流行の歌や懐かしい歌謡曲を歌い上げる。涙が出るほど笑った夜だった。

浩司さんの言葉を思い出した。「家族だから時にはけんかもあります。それでもお客様が来られると、心を一つにできるんです」。両親や祖父母に囲まれ、その背中を見て育っている子どもたちには、大人たちの心がしっかりと伝わっている。



宿の周りには赤土の畑がぐるり。料理に使う野菜はここで作られる。

民宿つるさき 黒島町3803-1 TEL.0956-56-2038

民宿つるさき 検索 ※島めしも食べられます。

# 家族の 笑顔が 最高の おもてなし

